

NEWSLETTER



第 148 号

| 2025 年 11 月発行

| ISSN: 2436 - 0864



2025 年度秋季学位記授与式 (2025 年 9 月 26 日)

■ TOPICS

- » 2025 年度秋季学位記授与式
- » 第 15 回 SOKENDAI 賞
- » 2025 年度前期 研究科長賞
- » 総研大東京オフィスがオープン
- » 2025 年度秋季入学式
- » 2025 年度後学期フレッシュマンコースを対面開催
- » 天文学コース「2025 年度 国立天文台・総研大サマースチューデントプログラム (夏の体験研究)」開催
- » 宇宙科学コース「夏の体験入学」実施
- » 第 1 回学生交流 SOKENDAI NETWORKING を開催
- » 生理科学コース 学生 田熊大輝さん
「第 52 回全日本大学ローイング選手権大会」で準々決勝に進出
- » 沖縄科学技術大学院大学とアカデミックキャリアセミナーを開催
- » 2025 年度総合研究大学院大学附属図書館職員研修会
- » 日本文学研究コース 2025 年度入試説明会
対面及びオンラインで開催

■ 受賞情報

■ プレスリリース情報

■ 研究助成学生の研究紹介

■ メディア情報

■ イベント情報

TOPICS

2025/9/26 2025 年度秋季学位記授与式



学位記授与

2025 年 9 月 26 日 (金)、葉山キャンパス講堂において秋季学位記授与式が挙行されました。式典では、学長より修了生一人一人に学位記が手渡されました。その後、学長による式辞があり、これに対し修了生代表からの謝辞が述べられました。課程博士 43 名、論文博士 2 名が総研大での博士号を手し、将来への新たな一歩を踏み出しました。

■学長式辞

» URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250926.html>

2025/9/26 第 15 回 SOKENDAI 賞



左: 吉田有宏さん、中央: 永田学長、右: 笹井健行さん

2025 年 9 月 26 日 (金)、学位記授与式に引き続き、第 15 回 SOKENDAI 賞受賞者 2 名の表彰が行われました。

氏名	所属
吉田有宏	物理科学研究科 天文学専攻
笹井健行	複合科学研究科 統計科学専攻

» SOKENDAI 賞は、本学の理念と目的に照らして、特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した修了生を表彰する賞として 2018 年度に創設されました。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250926_1.html

2025/9/26 2025 年度前期 研究科長賞

前列左から ISLAM MOUTUSHI さん、中村凜子さん
後列左から王紫沁さん、榊原研究科長、CHOU, CHIEN YU さん

2025 年 9 月 26 日 (金)、SOKENDAI 賞の表彰に続き、2025 年度前期 研究科長賞者 5 名の表彰が行われました。

氏名	所属
澁谷美和	文化科学研究科 地域文化学専攻
王紫沁	文化科学研究科 国際日本研究専攻
CHOU, CHIEN YU	高エネルギー加速器科学研究科 素粒子原子核専攻
ISLAM MOUTUSHI	生命科学研究科 遺伝学専攻
中村凜子	生命科学研究科 基礎生物学専攻

» 研究科長賞は、研究科において特段に顕彰するに相応しい研究活動を行い、その成果を優れた学位論文にまとめて課程を修了し、学位を取得した学生を表彰するものとして、2018 年度に創設されました。

» URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250926_2.html

2025/10/1 総研大東京オフィスがオープン



國中執行役、久留島理事、永田学長、山本理事、西尾課長補佐 (国立大学法人支援課)

2025 年 10 月 1 日 (水)、総研大の新たな拠点として、東京駅八重洲口に近いビルに東京オフィスをオープンし、同日、その開設を記念して関係者による除幕式が執り行われました。除幕式には、永田学長をはじめとする役員、國中執行役の出席のほか、文部科学省から国立大学法人支援課の西尾課長補佐をお招きし新拠点の開設を祝いました。

総研大は、実際の教育の場となる基盤機関が全国各地に分散しており、各コース間の連携が課題となっていたことから、新たに教育企画開発センターの下に共創支援部門を立ち上げ、学生による共創活動の推進や多様なキャリアパスの支援を行う拠点として東京オフィスを整備しました。

今後、共創支援部門長でもある國中執行役を中心に、分野を超えた学術交流や社会との連携を進め、未来を切り拓く人材の育成により一層努めていくとのことです。

URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251001.html>

2025/10/7 2025 年度秋季入学式



学長式辞

2025 年 10 月 7 日 (火)、2025 年度秋季入学式が葉山キャンパス講堂にて挙行されました。永田学長から式辞が述べられた後、新入生 46 名一人一人の名前が読み上げられ、新入生たちは新たな気持ちで大学院生活をスタートさせました。

URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251007.html>

2025/10/7 - 10/10 2025 年度後学期フレッシュマンコースを対面開催

10 月 7 日 (火) ~ 10 日 (金)、2025 年度後学期フレッシュマンコースを英語にて実施し、41 名の参加がありました。今回は、昨年度に続き 2 泊 3 日の合宿形式とオンデマンドを組み合わせた形の開催となりました。フレッシュマンコースは、「研究者を目指すすべての人が身につけるべき技術・考えるべき問題を学ぶ」「総研大ならではの知的広がりに触れる中で、異なる分野の人とのつながりを築く」ことを目的とし、新入生を主な対象として集中講義を実施しています。

初日～2 日目の「アカデミア探訪」では、総研大で行われる研究活動の多様性と共通性に触れ、大学院での研究生生活のイメージを描くことを目的として、大学共同利用機関教員によるパネルディスカッションと、在学生（フレッシュマンコース学生企画委員）による企画セッションが行われました。2～3 日目の「研究者と社会」では、研究者が社会において望ましい役割を果たし研究者のコミュニティが健全に機能するために必要な倫理規範を洞察する能力の涵養を目的とし、講義とワークショップ形式での授業を行いました。そのうち「研究者倫理」はオンデマンド講義として実施しました。「研究者のための“伝える技術”」は、研究成果発表を想定したプレゼンテーションとライティングについてのオンデマンド講義を行いました。



集中講義の様子



フレッシュマンコース学生企画委員と教員



グループワークの様子

授業後のアンケートにおける「オンラインではなく対面で集まったことは有意義でしたか」という質問には、90% 以上の回答者から、「とてもそう思う」という回答がありました。個別回答の中では、「Everything was useful, specially putting emphasis on the responsibilities that being a scientist brings with.」という声もありました。講義後には、対面での懇親会も開催し、学生企画委員が企画したビンゴゲームが催されるなど多くの参加者が交流を楽しみました。



フレッシュマンコース 集合写真

次回のフレッシュマンコースは日本語で 4 月開催予定です。

【教育企画開発センター】

2025/8/1-9/1 天文科学コース「2025 年度 国立天文台・総研大サマースチューデントプログラム (夏の体験研究)」開催

2025 年 8 月 1 日 (金) ~ 9 月 1 日 (月)、国立天文台・総合研究大学院大学サマースチューデントプログラムが実施されました。これは今年で 15 年目になる夏休み期間の研究体験プログラムで、大学 2 年または 3 年に在学する学生が国立天文台に滞在し、受入教員の指導のもとで研究することができる企画です。天文学に興味を強く持ち、意欲のある大学学部生に体験研究の機会を設けることで、将来天文学研究を志す人材を育成することを目的としています。実際、このプログラムの修了生が総研大 (天文科学コース) に入学し、研究者として活躍している例も多くあります。

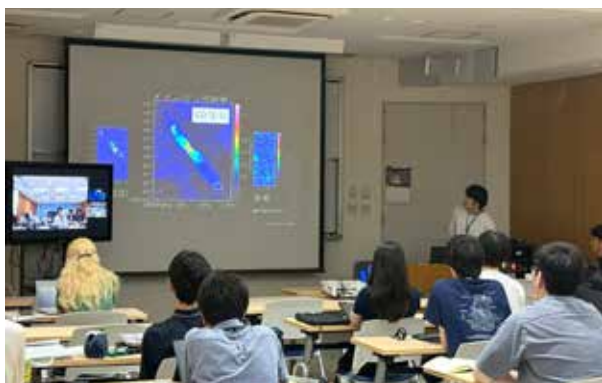
本年度も天文学研究から装置開発まで、非常に幅広い分野の教員がサマースチューデントプログラムに参加しました。各教員が研究指

導内容のシラバスを提出し、それをもとに学生がやりたい研究を希望することができます。



全国の様々な大学から多くの学生が本プログラムに参加した

今年は、全国の大学から、53名の学生の応募があり、28名の学生を選抜しました。学生の挑戦する研究テーマは惑星形成から遠方銀河、装置開発、さらには数値シミュレーションまで実に多岐にわたります。それぞれの学生が教員の指導を受けながら、プログラミング言語を用いたデータ解析や数値計算、装置開発における部品の設計など、通常の大学の講義では触れられない内容を濃密に経験することができました。研究体験だけではなく、研究室のメンバーや他のサマースチューデントの学生と昼食やコーヒーを飲みながらの雑談を通じて、研究とはどういうものかを少し具体的に知ることができたかもしれません。



研究成果発表会では各学生が質の高い発表を行った

サマースチューデントプログラムのまとめとなる研究成果発表会は2025年9月1日（月）にハイブリッド形式で国立天文台三鷹キャンパスにて開催されました。参加した学生の多くが対面による発表を行い、限られた研究期間にも関わらず質の高い発表が多くみられました。また、学生からの質問も多く議論が盛り上がり、盛況のうちに閉会となりました。参加学生、教員ともに中身の濃い有意義な1ヶ月となりました。この一夏の経験が学生にとっても、また教員にとっても、今後の役に立つことが期待されます。

【天文科学コース 田中賢幸准教授（国立天文台ハワイ観測所）、滝脇知也准教授（国立天文台天文シミュレーションプロジェクト）】

2025/8/27-8/28 宇宙科学コース「夏の体験入学」実施

2025年8月27日（水）から28日（木）にかけて、宇宙科学コースでは、JAXA 相模原キャンパスにて「夏の体験入学」を開催しました。本イベントには学部学生を中心に全国から38名が参加し、

宇宙科学分野への理解を深め、進路選択の一助となることを目的とした2日間のプログラムが展開されました。

初日は、山田亨コース長による総研大および当コースの概要説明に続き、川勝康弘教授による「深宇宙探査のミッション・軌道設計」に関する講義が行われました。軌道力学の基礎からミッション設計に至るまで、実際の探査計画を例に挙げながら丁寧に解説され、参加者の関心を引きつけました。その後、分野別説明会やコース担当教員との個別面談が実施され、各研究室の研究内容や指導方針について直接話を聞く機会となりました。夕方には在学生との懇談会も開かれ、学生生活や研究の実際について率直な意見交換が行われました。



川勝康弘教授による研究紹介講義



「分野別説明会」で、教員から直接話を聞く参加者

2日目は、浅村和史准教授による「衛星・探査機・ロケットによるプラズマ物理研究と装置開発」の講義から始まり、宇宙空間での観測技術や装置設計の最前線について学びました。続いてキャンパス内施設の見学会が行われ、実際の研究設備を目にすることで、研究環境への理解が一層深まりました。午後には再び教員との個別面談が行われ、参加者の興味関心に応じた対話が展開されました。面談の追加希望が相次ぐなど、参加者の積極的な姿勢が印象的でした。

事後アンケートでは、「宇宙科学について新しい知識が得られた」「進路の参考になった」といった声が寄せられ、本プログラムが宇宙科学研究の魅力と当コースの教育体制を実感できる機会となったことが伺えました。

【宇宙科学コース 鳥海森准教授】

2025/9/2 第1回学生交流 SOKENDAI NETWORKING を開催

2025年9月2日(火)、御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンターにて、第1回学生交流イベント「SOKENDAI NETWORKING」が開催されました。本イベントは、総研大の学生が所属コースを越えて交流し、研究やキャリアの視野を広げることを目的として企画されたものです。

本学は、全国に散在する大学共同利用機関（基盤機関）を教育研究の場として次世代の博士人材の育成を進めています。急速に発展しつつある学術の動向を踏まえ、2023年4月に、それまでの6つあった研究科を1つの「先端学術院」に改組し、基盤機関や学問分野の枠を越えたより柔軟な教育ができる体制を整えました。その実践の中で「学生が基盤機関に分散していて交流が限られている」、「もっと繋がりを作りたい」という声が学生から寄せられ、それに応える形で、本イベントが開催されました。

当日は、学生・教員あわせて約150名が参加し、始めに國中 均氏（前 JAXA 宇宙科学研究所長）による講演が行われ、宇宙科学の発展史、「はやぶさ」「はやぶさ2」などの成果とともに、学生に対する熱いメッセージが語られました。その後の学生交流会では、「トビタテ! 留学 JAPAN 留学成果報告」や研究成果のポスター展示等も行われ、学生同士の活発な交流・意見交換が行われました。



研究交流セミナーで講演する JAXA（宇宙科学研究所）國中 特任教授



「トビタテ! 留学 JAPAN 留学成果」を報告する学生



学生交流会のポスター展示で意見交換する参加者ら

学生交流会は終始和やかな雰囲気の中で進行し、所属コースの垣根を越えた新たなつながりが生まれる有意義な機会となりました。また、イベントの企画・運営には学生運営コーポレーターが携わり、事前の打合せを重ねながら当日の会場準備や進行を担いました。今後もこのような交流の場を継続的に設けることで、学生の研究活動の一層の発展とネットワーク形成を支援し、その中から新たな共創研究が生まれることを期待しています。



終始和やかな雰囲気の学生交流会での集合写真

URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250922-1.html>

【学務課】

2025/9/3-9/7 生理科学コース 学生 田熊大輝さん「第52回全日本大学ローイング選手権大会」で準々決勝に進出

9月3日～7日、本学生理科学コースの田熊大輝さんが、戸田ボートコースで開催された「第52回全日本大学ローイング選手権大会」に本学ボート部として男子シングルスカルの種目で出場し、準々決勝に進出しました（16位～25位相当）。



試合中の田熊大輝さん

本大会は日本一の大学生を決める、国内最大規模の大会です。特に男子シングルスカルは、全国屈指の強豪が集う激戦種目です。関西選手権の優勝者や全日本ローイング選手権の入賞者といったトップ選手と競り合いながら準々決勝へ進出できたことは、大きな自信となりました。今後も研究活動と競技活動の双方から総研大を盛り上げられるよう、一層の努力を重ねてまいります。加えて、本大会で「総合研究大学院大学」の名前を見たことをきっかけに総研大に興味を持ち、進学先の選択肢として考える学部生が増えるのであれば嬉しい限りです。

最後に、艇の運搬や大会準備に際してご協力いただいた、名古屋大学・東北大学・京都大学のボート部をはじめとした多くの方々に心より御礼申し上げます。

【生理科学コース 5年一貫制博士課程 3年 田熊大輝】

2025/9/10 沖縄科学技術大学院大学とアカデミックキャリアセミナーを開催

2025年9月10日(水)、CEPD セミナー「Academic Career Seminar」をオンラインで開催しました。今回、アカデミックキャリアというテーマでの開催は、総研大としては4回目です。当日の参加者数は35名でした。

本セミナーは、博士号取得後に海外でのアカデミックポストを検討している方々を主な対象として、実際に海外のアカデミアで働く研究者から、国を跨いだどのようなキャリア形成があり得るか紹介してもらいました。

今回は、本学複合科学研究科極域科学専攻（国立極地研究所）で博士号を取得後、フランスに拠点を移し研究を続けてこられた Yan Ropert-Coudert 博士に登壇いただきました。Yan Ropert-Coudert 博士は、今年3月までフランス極地研究所の所長を務められ、現在は La Rochelle University シゼ生物学研究センターで research director を務められています。2024年1月には、フランス共和国政府より、長年の極域研究への功績が認められ、レジオン・ドヌール勲章シュヴァリエを授与されました。当日のQ&Aでは、Ropert-Coudert 博士がアカデミアでの就職のために非常に多くの job application を様々な国へ提出してきた経験や、様々な研究人生上の困難をどのように乗り越えてきたかなど、沢山の質問が出ました。

Robert-Coudert 博士は、今後の院生のキャリアにおいて役立つ内容を先輩の立場から親身になって回答されていました。最近は総研大にフランスから正規生として入学してくる留学生も増えており、そのような留学生にとっても自身の人生と重ねて聴いてもらえたのだと思います。



当日の集合写真（一部）

今回沖縄科学技術大学院大学との共催セミナーでしたが、同じようなキャリアを目指す人が多い大学院同士で多くの質問が飛び交っていた様子がとても印象的でした。また次回も良い企画を提供していければと考えています。



Photo © Michael Wenger

Yan Robert-Coudert 博士：

2001年3月総合研究大学院大学複合科学研究科極域科学専攻修了。日本の国立極地研究所ポスドク、フランス CNRS Strasbourg、CNRS Chize、フランス極地研究所所長等を経て、現在は La Rochelle University シンセ生物学研究センターで research director。専門は、海洋生態学、バイオリギング。

【教育企画開発センター エデュケーションアドミニストレーター眞山聡】

2025/10/2-10/3 2025 年度総合研究大学院大学 附属図書館職員研修会

10月2日（木）～3日（金）、2025 年度総合研究大学院大学 附属図書館職員研修会を対面（於：葉山キャンパス）とオンラインのハイブリッド形式で開催しました。1 日目は現地 16 名・オンライン 10 名、2 日目は現地 13 名・オンラインは 23 名の葉山本部図書館の職員および、附属図書館を構成する各基盤機関の図書館・図書室の教職員が参加しました。

今年度は基盤機関より、①海外からの ILL 受付状況、②研究データ管理の運営体制や周知について、③ GakuNin RDM 等の研究データ管理システムの導入状況、④機関リポジトリへのデータ登録状況、⑤発表論文数の集計方法について、⑥各機関の独自導入しているデータベース・リンクリゾルバについて、の 6 件の承合事項が提案されました。

意見交換会では、学術情報基盤事務室の貝塚室長による司会進行のもと、Wiley のオープンアクセス申請枠と申請受理手順に関する議題で、意見交換が行われました。

2 日目の講演会では、鈴木康平先生（人間文化研究機構特任准教授）に「オープンアクセスと CC ライセンス」と題して、お話いただきました。現在のオープンアクセスの流れや著作権について改めて理解を深めるとともに、認識があいまいだった CC ライセンスについて勉強させていただきました。オープンアクセス



鈴木康平先生

やリポジトリ等を扱う図書館員として、貴重な機会となりました。

昨年度から対面を含めた開催が再開し、今年度も活発な意見交換や交流をすることができました。今後も各基盤機関図書館・図書室との連携を深め、学生・研究者を支援していけるよう努めてまいります。

【図書係】

2025/10/5 日本文学研究コース 2025 年度入試説明会 対面及びオンラインで開催

10月5日（日）、日本文学研究コースでは入試説明会を開催し、9 名の参加がありました。

参加者はコースの特色や入試について説明を受けた後、希望する教員と個別に面談を行い、研究内容や今後の研究計画について話し合いました。続いて、在学生・修了生と懇談会を行い、在学生・修了生から研究環境をはじめ、博士論文発表に至るまでの研鑽や苦労している点について率直な言葉で説明があり、それに対し参加者から多くの質問があがりました。



コース説明の様子

対面参加者には、説明会の最後に施設案内がありました。在学生から院生室・院生図書室などの紹介を受けた後、閲覧室で在学生・教員とともに古典籍を閲覧しました。貴重書を含む当館の古典籍や本コースの教育研究プロジェクトで選定した書物など、多彩な原本の説明を受けました。教員からはそれぞれの書物の特色が語られ、興味深く聞き入る様子が伺えました。



古典籍閲覧の様子

参加者の皆さまにとって、今回の説明会が本コースにおける学生生活への理解を深めていただく機会となったことを願っています。

【日本文学研究コース】

AWARDS

2025/7/18 宇宙科学コース 学生 新垣善斗さん

35th ISTS (International Symposium on Space Technology and Science : 宇宙技術および科学の国際シンポジウム) , Student Session Award (JSASS President Award) 受賞



新垣善斗さん

【受賞コメント】

今回の受賞は、指導教員である月崎先生をはじめ、研究室の皆さまのご指導とご支援のおかげでいただくことができました。本研究では、燃費に優れる電気推進エンジンと高い推進力を有する化学推進エンジンの双方に利用できる燃料を用いて、「統合推進エンジン」の実現可能性を実証しました。この成果が評価され、今回の受賞につながったと考えています。今後は、統合推進システムの実現に向けて、さらに研究を進めていきます。

>> URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251016_2.html

2025/8/26-8/29 日本語言語科学コース 学生 Yuqi Yin. さん

58th Annual Meeting of the Societas Linguistica Europaea, Second Prize for Best Conference Paper 受賞

>> URL : <https://www.ninjal.ac.jp/info/researcher/results/2025/#r013>

2025/9/12 核融合科学専攻 修了生 Joseph John Simons さん

第12回核融合科学研究所学生優秀発表賞受賞

2025/9/22 核融合科学コース 鈕持尚輝准教授

一般社団法人アジア太平洋物理学会連合プラズマ物理部門 (AAPPS-DPP) 受賞

2025/9/30 統計科学コース 藤澤洋徳教授

第30回（令和7年度）日本統計学会賞受賞

>> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250930.html>



藤澤洋徳教授

2025/10/12 統合進化科学研究センター 特別研究員 Hampson Katherine さん

日本人類学会 Anthropological Science 論文奨励賞受賞

※東京大学大学院在籍中の研究成果による受賞

>> URL: https://anthropology.jp/as_prize.html



Hampson Katherine さん

2025/10/25 日本文学研究専攻 学生 瀧山嵐さん

第18回中古文学会賞受賞

【受賞コメント】

この度、第18回中古文学会賞の栄誉を賜りました。入学以来、ご指導いただいた先生方に厚く御礼申し上げます。私の研究は、全国の各種機関に所蔵される原本資料の実地調査に基づいております。所蔵機関と所蔵者の皆様にも、心より感謝の意を表したく存じます。この度の栄誉に恥じることもないよう、一層研究に邁進し、中古文研究の学術水準の向上に貢献してまいりたく存じます。

>> URL: <https://www.nijl.ac.jp/news/8846/>

Press Release

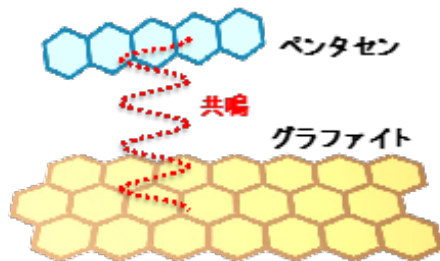
2025/8/28

分子の運命の赤い糸は、確かにそこにあった — 分子界面に潜む「弱い結びつき」を電子共鳴で可視化

概要

ふれるか、ふれないか。そんなかすかなやりとりが、電子の世界に痕跡を残す。分子と基板が作る“界面”で生じる極めて弱い結びつき「ファンデルワールス相互作用」。その存在を、電子の共鳴現象（ファノ共鳴）として初めて明瞭にとらえることに、日本の研究チームが成功しました。この発見は、未来のナノエレクトロニクスや次世代材料の基盤となる、分子界面の「見えないつながり」の可視化につながるものです。

本研究成果は、国際学術誌『Physical Review B』に、2025年8月1日付でオンライン掲載されました。



論文情報

- ≫ 掲載誌: *Physical Review B*
- ≫ 論文タイトル: Fingerprinting weak electronic interaction at a van der Waals interface: Fano signatures in a pentacene monolayer on graphite
- ≫ 著者: Yuri Hasegawa (分子科学研究所、筑波大学), Takuma Yamaguchi (分子科学研究所、総合研究大学院大学), Matthias Meissner (分子科学研究所), Takahiro Ueba (分子科学研究所), Fabio Bussolotti (分子科学研究所), Shin-ichiro Ideta (分子科学研究所 UVSOR、広島大学), Kiyohisa Tanaka (分子科学研究所 UVSOR、総合研究大学院大学), Susumu Yanagisawa (琉球大学), Satoshi Kera (分子科学研究所、総合研究大学院大学)
- ≫ DOI: <https://doi.org/10.1103/2k7h-h8jm>
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250828.html>

2025/9/18

水中でバランスを保つ秘密 ～成魚が体をわずかに曲げて姿勢を保つメカニズムを発見～

概要

基礎生物学研究所／自然科学研究機構 生命創成探究センター／総合研究大学院大学の永岡良太 大学院生、東島 真一 教授、谷本昌志 助教らの研究グループは、成魚のゼブラフィッシュが一見しているように見えるときでも、転倒せずに姿勢を保つしくみを明らかにしました。魚は体が少し傾いたときに体をわずかに曲げることで、体内の浮き袋（鰾：うきぶくろ）の相対的な位置を変え、元の姿勢に戻るための復元トルクを生み出して姿勢を維持していることがわかりました（図1）。この発見は、魚類の巧妙な姿勢制御システムの理解を深める重要な成果で、iScience 誌に掲載されました。

論文情報

- ≫ 掲載誌: *iScience*
- ≫ 論文タイトル: Biomechanics of static roll posture control by body flexion in adult zebrafish
- ≫ 著者: Ryota Nagaoka, Taisei Katayama, Shin-ichi Higashijima, Masashi Tanimoto
- ≫ DOI: <https://doi.org/10.1016/j.isci.2025.113416>
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250918.html>

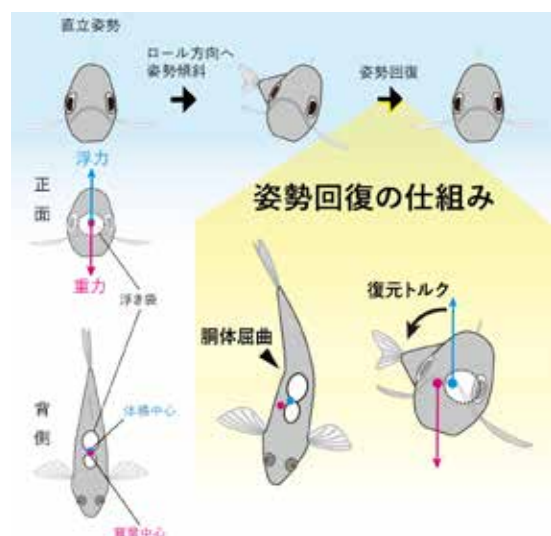


図1. 研究の概要

ゼブラフィッシュ成魚は、左右（ロール）方向に体が傾くと上側になる体側へ体を曲げる。この際、浮き袋（空気で満たされ密度が極めて低い）の体全体に対する相対位置が移動し、重力と浮力の作用軸がずれることで姿勢復元トルクが発生して姿勢回復する。

2025/9/22

遺伝子のスイッチ OFF に関わるヒストンのメチル化酵素の活性を制御する新たな仕組みを発見

概要

ヒトを含む真核生物では、ヘテロクロマチンと呼ばれる高次クロマチン構造が染色体の安定化や遺伝子発現の抑制に寄与します。ヘテロクロマチン形成には、ヒストン H3 の 9 番目のアミノ酸であるリジン (H3K9) のメチル化修飾が重要で、この修飾は H3K9 メチル化酵素である Clr4/Suv39 によって触媒されます。ヘテロクロマチン形成やそれに伴う遺伝子の発現抑制は生命にとって重要ですが、この酵素によって生存に必要な遺伝子の発現まで抑制されてしまう恐れがあるため、Clr4/Suv39 の H3K9 メチル化活性は厳密に制御されている必要があります。しかしながら、その活性制御の詳細は分かっていませんでした。

基礎生物学研究所 クロマチン制御研究部門／総合研究大学院大学の中村凜子大学院生、中山潤一教授を中心とした研究グループは東京大学 定量生命科学研究所の胡桃坂仁志教授らと共同で、分裂酵母を用いて、ヒストンメチル化酵素 Clr4 の酵素活性が、Clr4 内の天然変性領域 (IDR) によって制御されることを明らかにしました (図 1)。本研究は、2025 年 9 月 23 日に国際学術誌「Nucleic Acids Research」に掲載されました。

2025/9/25

アオザメの並外れた体温調節能力をバイオリギングで実証

概要

●マグロやカジキ、一部のサメ (ホホジロザメやアオザメなど) は、まわりの水温より体温を高く保つ「部分的内温性」という性質を持ちます。これはおもに冷たい海域への適応だと考えられてきました。アオザメのような温かい海域を好む種において、この能力がどのような生存上のメリットをもたらすのかは謎でした。

●動物に行動記録計を装着するバイオリギングの手法で、野生のアオザメの体温、まわりの水温や深度を計測しました。その結果、体温上昇が体温低下より 10 倍以上速く進行することを見つめました。冷たい深海では体温がまわりに奪われるのを防ぎ、温かい海面では逆に熱を吸収していました。この並外れた体温調節能力により、獲物が豊富な深海での捕食効率を高めていると考えられます。

●本研究により、アオザメのような温かい海域を好む種が、状況に応じて柔軟に体温を調節できることが明らかになりました。これは、体温保持と冷たい海域への適応こそが部分的内温性のメリットだとする従来の理解を覆す発見です。この新たな知見は、なぜ部分的内温性をもつ魚が世界中で繁栄するに至ったのかを解明する上で重要な手がかりとなります。

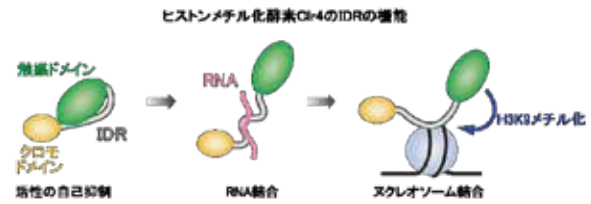


図 1：ヒストンのメチル化酵素である Clr4 内の天然変性領域 (IDR) のアミノ酸は触媒ドメインの酵素活性を自己抑制する。IDR が RNA に結合するとその抑制は解除され、脱抑制が起こる。IDR はヌクレオソームに結合し、Clr4 によるヌクレオソーム上の H3K9 のメチル化を促進する。

論文情報

- >> 掲載誌: **Nucleic Acids Research**
- >> 論文タイトル: Intrinsically disordered region of Clr4/Suv39 regulates its enzymatic activity and ensures heterochromatin spreading
- >> 著者: Rinko Nakamura, Aki Hayashi, Reiko Nakagawa, Yuriko Yoshimura, Naoki Horikoshi, Hitoshi Kurumizaka, Jun-ichi Nakayama
- >> DOI: <https://doi.org/10.1093/nar/gkaf878>
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250922.html>



行動記録計を装着したアオザメ。© Zola Chen

論文情報

- >> 掲載誌: **Journal of Animal Ecology**
- >> 論文タイトル: Enhanced thermoregulation abilities of shortfin mako sharks as the key adaptive significance of regional endothermy in fishes
- >> 著者: 徳永 壮真 (総合研究大学院大学 先端科学研究科 生命共生体進化学専攻・5年一貫制博士課程 5年) Wei-Chuan Chiang (台湾農業部水産試験所 東部漁業生物研究センター・主任)、中村 乙水 (長崎大学 海洋未来イノベーション機構 環東シナ海環境資源研究センター・准教授) 松本 瑠偉 (沖縄美ら島財団 総合研究所・動物研究室長 兼 上席研究員)、渡辺 佑基 (総合研究大学院大学 統合進化科学コース / 統合進化科学研究センター・教授)
- >> DOI: <https://doi.org/10.1111/1365-2656.70116>
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250925.html>

2025/9/25

惑星を作る渦巻きのダイナミックな動きを初めて捉えた

概要

惑星が作られる現場である原始惑星系円盤の渦巻きについて、7年間にわたるアルマ望遠鏡の観測データを解析した結果、そのダイナミックな動きを初めて捉えることに成功しました。原始惑星系円盤の中で惑星がどのようなプロセスを経て作られるのか、その謎に迫る重要な知見です。

惑星は、若い恒星を取り囲む原始惑星系円盤の中で形成されます。また、一部の原始惑星系円盤には渦巻き状の構造が観測されています。この渦巻きの中では塵（ちり）の合体が効率的に進んだり、渦巻きの分裂が直接惑星の形成につながったりして、惑星が急速に形成される可能性があると考えられています。このような場合は、渦巻き状の構造が円盤そのものの重みによって作られると考えられています。しかしその一方で、形成後の惑星の影響によって作られる可能性も指摘されています。渦巻き状の構造が作られるのは惑星が形成される前なのか、それとも後なのか、議論は二分していました。

国際研究チームは、若い恒星「おおかみ座 IM」を取り囲む原始惑星系円盤に注目しました。この円盤には渦巻き状の構造が存在することが知られています。研究チームは、アルマ望遠鏡によって2017年から2024年にわたって得られた4回の観測データから原始惑星系円盤の変化の動画を作り、渦巻き状の構造が巻き付いていくようなダイナミックな動きを示していることを明らかにしました。さらに、その巻き付く速度は、渦巻き状の構造が円盤自身の重みによって作られる場合の予測と一致していることも分かりました。形成後の惑星の影響で渦巻き状構造が作られた場合には、このような巻き付きは見られないと考えられています。つまり、この原始惑星系円盤は、今まさに惑星が誕生する、その直前の状態にあると推測できるのです。

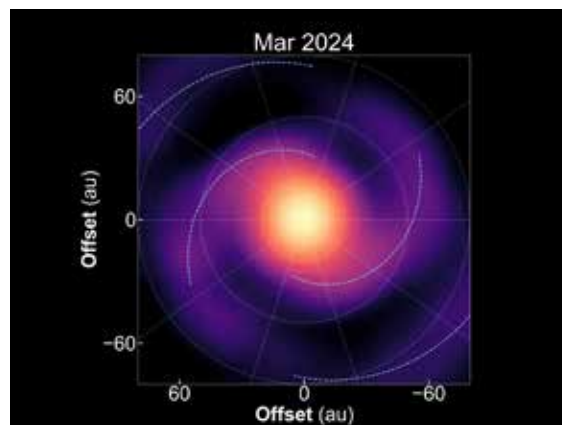
この研究チームを率いた、総合研究大学院大学 博士課程の吉田有宏（よしだ ともひろ）さんは、「解析の結果、渦巻きが本当に動いているのが見えたときには、思わず声が出てしまいました」と、その驚きを語っています。研究チームは今後、他の原始惑星系円盤も同様に観測し、惑星の形成がどのように進行するかをさらに詳細に解明していくことを目指しています。

2025/10/9

女王を中心とした真社会性哺乳類ハダカデバネズミ社会の全貌
——全個体自動追跡システムによる大規模社会行動解析——

概要

熊本大学大学院生命科学研究部の山川真徳博士研究員、東京大学定量生命科学研究部の奥山輝大教授、九州大学大学院医学研究部の三浦恭子教授（兼：熊本大学大学院生命科学研究部 客員教授）、総合研究大学院大学の沓掛展之教授らによる研究グループは、哺乳類では極めて珍しい真社会性を持つハダカデバネズミにおいて、大規模社会行動解析によって社会全体の構造と個体間の社会的関係性を明らかにしました。



アルマ望遠鏡の観測で捉えた、原始惑星系円盤の渦巻き状の構造がダイナミックに変化している様子。

（クレジット：ALMA (ESO/NAOJ/NRAO), Tomohiro Yoshida et al.）

論文情報

- >> 掲載誌: *Nature Astronomy*
- >> 論文タイトル: Winding Motion of Spirals in a Gravitationally Unstable Protoplanetary Disk
- >> 著者: 吉田有宏（国立天文台 科学研究部／総合研究大学院大学 物理科学研究科 天文科学専攻（在学中））、野村英子（国立天文台 科学研究部／総合研究大学院大学 先端学術院 天文科学コース 教授）、土井聖明（マックスプランク天文学研究所 惑星・星形成部門 博士研究員）、マルセロ・バラザ・アルファロ（マサチューセッツ工科大学 地球・大気・惑星科学科 博士研究員）、リチャード・ティグ（マサチューセッツ工科大学 地球・大気・惑星科学科 助教）、古家健次（理化学研究所 開拓研究所 坂井星・惑星形成研究室 研究員）大和義英（理化学研究所 開拓研究所 坂井星・惑星形成研究室 基礎科学特別研究員）、塚越崇（足利大学 工学部 創生工学科 システム情報分野 准教授）
- >> DOI: [10.1038/s41550-025-02639-y](https://doi.org/10.1038/s41550-025-02639-y)
- >> URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20250925_1.html

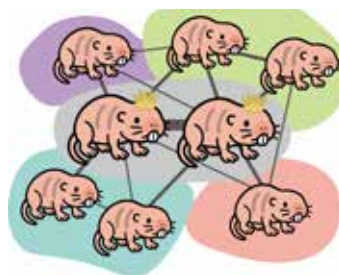


図1：真社会性哺乳類であるハダカデバネズミの社会構造
ハダカデバネズミの群れ内の行動型と社会ネットワークの構造を網羅的に解明した。

本研究では、個体タグである RFID 技術を用いた群れ全体の自動追跡システムを独自開発し、5 群 102 匹を対象に 30 日間の動きを網羅的に記録しました。その結果、繁殖個体（女王と繁殖オス）は特有の行動を示し、社会の中心的存在であることが判明しました（図 1）。一方、非繁殖個体（ワーカー）は「働き者」など 6 種類の行動型に分かれ、安定した役割分担をしていることがわかりました。さらに行動型ごとに他個体との関係性も異なり、群れの中で多様な戦略が共存していることが示されました。

この成果は、他の動物種での社会性研究にも応用可能であり、協力社会の仕組みやその維持メカニズムを解明するための重要な基盤となります。本研究成果は、日本時間 2025 年 10 月 9 日付で、Science Advances 誌に掲載されました。

2025/10/14

銀ナノクラスターにおける「1 原子の違い」で室温発光効率が 77 倍向上 高効率発光材料の開発に道

概要

銀ナノクラスター (Ag NC) は原子レベルで構造が決定されたナノ物質であり、量子化された電子状態に起因する独自の光学特性を示します。特に発光特性（フォトルミネッセンス、PL）は、センサーや光デバイス応用への展開が期待されますが、室温での発光効率が低いことが大きな課題となっていました。

東北大学 多元物質科学研究所の根岸雄一 教授、Biswas Sourav 助教、自然科学研究機構 計算科学研究センター／総合研究大学院大学の江原正博 教授、東京理科大学 理学部第一部の湯浅順平教授らの研究グループは、アニオン鑄型合成法を用いて、原子数 78 と 79 の 2 種類の高核数 Ag NC (Ag₇₈ および Ag₇₉) の合成に成功しました。両者はほぼ同一の骨格を持つにもかかわらず、外殻に銀原子が 1 つ多い Ag₇₉ は、Ag₇₈ に比べて室温での発光量子収率が 77 倍に達することを明らかにしました。

この発光効率の劇的な向上は、対称性の低下による放射遷移の強化と、リガンド環境の変化による構造揺らぎの抑制という 2 つの効果が同時に作用した結果であることが、実験と理論計算の両面から示されました。

本成果は、「わずか 1 原子の違いが発光特性を大きく変える」という新たな知見を提示し、高効率発光材料や光デバイス設計に向けた重要な指針を提供するものです。

本研究成果は、2025 年 9 月 30 日公開の学術誌 Journal of the American Chemical Society に掲載されました。

論文情報

- >> 掲載誌 : **Science Advances**
- >> 論文タイトル : Quantitative and systematic behavioral profiling reveals social complexity in eusocial naked mole-rats
- >> 著者 : asanori Yamakawa*, Takahiro Ezaki, Akiyuki Watarai, Nobuyuki Kutsukake, Kyoko Miura*, Teruhiro Okuyama* *: 責任著者
- >> DOI: [10.1126/sciadv.ady0481](https://doi.org/10.1126/sciadv.ady0481)
- >> URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251009_1.html

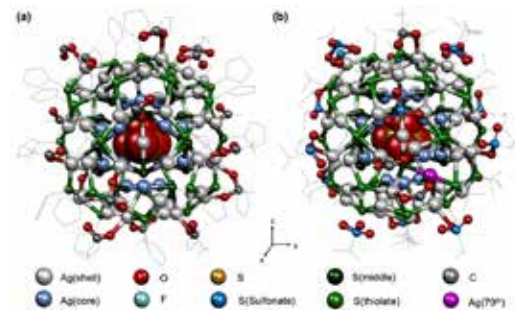


図 1. (a) Ag₇₈ と (b) Ag₇₉ の構造比較。Ag₇₈ では外殻に 60 個の Ag 原子があり、C3 対称性を形成。Ag₇₉ では外殻に 61 個の Ag 原子があり、C3 対称性が崩壊。

論文情報

- >> 掲載誌 : **Journal of the American Chemical Society**
- >> 論文タイトル : Triggering Photoluminescence in High-Nuclear Silver Nanoclusters via Extra Silver Atom Incorporation
- >> 著者 : 秋山葵,¹ Sakiat Hossain,² Sourav Biswas,^{*3} Takafumi Shiraogawa,⁴ Pei Zhao,⁴ 中本真奈,¹ 緒方大二,¹ 川脇徳久,³ 新堀佳紀,² 湯浅順平,¹ 江原正博,^{*4} 根岸雄一^{*1-3} (1. 東京理科大学理学部第一部、2. 東京理科大学研究推進機構総合研究院、3. 東北大学多元物質科学研究所、4. 自然科学研究機構計算科学研究センター) ※責任著者
- >> DOI: [10.1021/jacs.5c10289](https://doi.org/10.1021/jacs.5c10289)
- >> URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251014.html>

2025/10/16

アサガオがつぼみから咲いてしおれるまで、花弁でのすべての遺伝子の動きを明らかに

概要

基礎生物学研究所および総合研究大学院大学の中川颯也大学院生（現・新潟大学 助教）と星野敦助教らの研究チームは、アサガオの花が咲く前からしおれるまでの3日半にわたり、花びら（花弁）の中でどの遺伝子がどれくらい働いているか（発現レベル）を3時間ごとに記録したデータベースを開発しました。このデータベースは、花弁を遺伝子から研究することにとっても便利で、早朝に咲いたり、短い時間でしおれてしまったりする「アサガオらしさ」のしくみの解明に役立ちます。また、このデータベースは世界中の誰でも利用できるもので、研究者だけでなく、少し進んだ自由研究や学校での探究活動にも使っていただけます。本研究の成果は、2025年9月30日付けで国際学術誌「Plant & Cell Physiology」にオンライン掲載されました。



図1：データベースの開発に使ったアサガオの系統は、東京古型標準型（とうきょうこけいひょうじゅんがた）です。この系統はゲノム配列も明らかになっています。

論文情報

- » 掲載誌: *Plant & Cell Physiology*
- » 論文タイトル: Transcriptomic dynamics of petal development in the one-day flower species, Japanese morning glory (*Ipomoea nil*)
- » 著者: Soya Nakagawa, Atsushi Hoshino, Kazuyo Ito, Hiroyo Nishide, Katsuhiro Shiratake, Atsushi J. Nagano, Yasubumi Sakakibara
- » DOI: <https://doi.org/10.1093/pcp/pcf108>
- » URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251016.html>

2025/10/22

プラズマ閉じ込め性能を決める新たなメカニズムを発見 ～大きい渦が小さい渦を引き伸ばしたり抑えついたりしている～

概要

自然科学研究機構核融合科学研究所（岐阜県土岐市）の徳沢季彦教授、居田克巳特任教授、総合研究大学院大学博士課程の那須達丈さん、京都大学の稲垣滋教授らの研究グループは、サイズの異なる二つの揺らぎを同じ場所で同時に観測できる高性能の乱流計測器を開発し、大型ヘリカル装置の高温プラズマの微小な揺らぎの観察に適用しました。この度、大きいサイズの乱流渦が、サイズの小さい乱流渦を引き伸ばして、その成長を抑えているということを発見しました。これまでのプラズマ閉じ込めモデルでは考慮してこなかった、この二つの揺らぎの間で生じている相互作用のメカニズムは、プラズマの閉じ込め性能に大きな影響を与えていると考えられ、将来の発電炉の性能を予測する上で大変重要な知見を得ることができました。

この研究成果をまとめた論文が *Communications Physics* に10月6日に掲載されました。また、第30回国際原子力機関 (IAEA) 核融合エネルギー会議にて10月15日に発表されました。

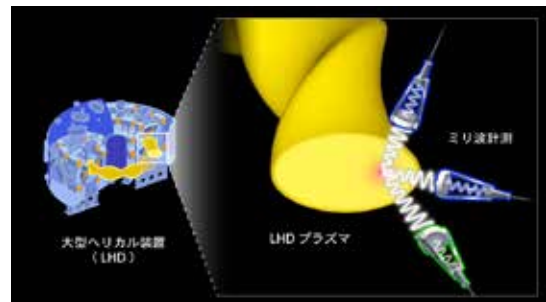


図1. 異なる二つのサイズの乱流の特性を調べるため、ミリ波散乱計測装置を設置した。青い二つのアンテナはサイズの小さい方の乱流を二方向から同時に観測し、緑色のアンテナは同じ位置でサイズの大きい方の乱流を観測する。

論文情報

- » 掲載誌: *Communications Physics*
- » 論文タイトル: Cross-scale nonlinear interaction and bifurcation in multi-scale turbulence of high-temperature plasmas
- » 著者: Tokihiko Tokuzawa, Tatsuhiko Nasu, Daiki Nishimura, Katsumi Ida, Mikirou Yoshinuma, Tatsuya Kobayashi, Kenji Tanaka, Shigeru Inagaki, Akihide Fujisawa, Ichihiko Yamada, Kimitaka Itoh
- » DOI: [10.1038/s42005-025-02245-4](https://doi.org/10.1038/s42005-025-02245-4)
- » URL: <https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251022.html>

2025/10/22

ダイナミックな電子が効率よく熱を電気に変換する —近藤効果が熱電材料の性能を向上させるメカニズムを実験的に解明—

概要

学校法人トヨタ学園 豊田工業大学（学長 中野義昭、名古屋市天白区）大学院工学研究科 エネルギー材料研究室 松波雅治 准教授ならびに同研究室 修士課程 2 年 後藤大輝らの研究グループは、大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 分子科学研究所 極端紫外光研究施設／総合研究大学院大学の田中清尚 准教授と共同で、角度分解光電子分光という手法を用いて、熱電材料の高性能化の鍵とされている電子散乱の影響を可視化することに初めて成功しました。本研究により電子散乱を利用した材料開発の新しい方向性が示されたことで、熱電変換技術の発展とその社会実装の促進につながることが期待されます。本研究成果は、2025 年 10 月 20 日（日本時間）米国物理学協会の学術誌「Applied Physics Letters」のオンライン版に掲載されました。

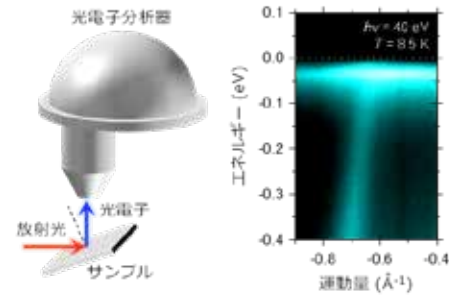


図 1. 角度分解光電子分光の概念図（左）と今回の実験で得られた YbCu₂Si₂ における電子のエネルギーと運動量の関係（右）。

論文情報

- ≫ 掲載誌: **Applied Physics Letters**
- ≫ 論文タイトル: Evidence for energy-dependent scattering dominating thermoelectricity in heavy fermion systems (重い電子系の熱電現象を支配するエネルギー依存散乱の証拠)
- ≫ 著者: Daiki Goto, Kentaro Kuga, Kiyohisa Tanaka, Tsunehiro Takeuchi, Masaharu Matsunami
- ≫ DOI: [10.1063/5.0291138](https://doi.org/10.1063/5.0291138)
- ≫ URL: https://www.soken.ac.jp/news/2025/20251022_1.html

研究助成学生の研究紹介

SOKENDAI 研究派遣プログラム等に採択された学生の研究概要を順次本学ホームページに紹介しています。

<https://www.soken.ac.jp/student-research/index.html>

新規掲載情報



信頼性のある AI のための基礎科学

- ≫ 司馬博文
- ≫ 統計科学
- ≫ SOKENDAI 研究派遣プログラム
- ≫ URL: <https://www.soken.ac.jp/student-research/20250909.html>

メディア情報

2025/9/8-9/14 JBS 日本福祉放送 竹田と山
口のときどき役立ちラジオ!

- ≫ 小野林太郎 教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル: 特別展「舟と人類」実行委員長・小野教授のインタビュー「見どころを紹介」
- ≫ URL: <https://www.jbs.or.jp/radio/yakudachi-radio/>

2025/9/12 京都新聞 夕刊

- ≫ 斎藤玲子 准教授（人類文化研究コース）
- ≫ タイトル: 京都ピックアップコラム
現代のことば 舟おろし祭り
- ≫ URL: <https://www.kyoto-np.co.jp/articles/-/1560822>

2025/9/20 日本経済新聞 夕刊

- » 奈良雅史 准教授（人類文化研究コース）
- » タイトル：文化往来 民博が特別研究
宗教と民族の関係、分断が包摂か

2025/9/21 河江肖剰の歴史探訪 (YouTube)

- » 末森薫 准教授、相島葉月 准教授（人類文化研究コース）
- » 出演：末森准教授と相島准教授の案内で民博を紹介
- » URL：<https://www.youtube.com/watch?v=tWiqM9vvS24&t=3s>

2025/9/22 文部科学 教育通信 No.612

- » 永田敬学長（総合研究大学院大学）
- » タイトル：柔軟な教育環境で「自走力」のある人材を育成する

2025/9/28 BSフジ ガリレオX

- » 小野林太郎 教授（人類文化研究コース）
- » タイトル：第346回「移動するヒト ホモ・モビリティ
人類にとって移動とは何か？」
- » URL：<https://www.bsfuni.tv/galileo/pub/346.html>

2025/9/29 NHK 関西ラジオワイド

- » 小野林太郎 教授（人類文化研究コース）
- » タイトル：関西 時の人
※小野先生への特別展等に関してインタビュー
- » URL：<https://www.nhk.jp/p/rs/3LMYMLG7XQ/episode/re/MKM2899W8G/>

2025/10/1、10/8、10/15、10/22 NHK 3か月でマスターする 古代文明

- » 関雄二 館長（国立民族学博物館）
- » 出演：3か月でマスターする古代文明 ナビゲーター
- » URL：<https://www.web.nhk.tv/an/3months-kodaibunmei/pl/series-tep-3JYG9W8MQ5>

2025/10/2 ABC ラジオ ドッキリ!ハッキリ!三代澤康司です

- » 関雄二 館長（国立民族学博物館）
- » タイトル：今日のスペシャル
三尾教授の研究や、インドについてのお話
- » URL：<https://abcradio.asahi.co.jp/miyo/>

2025/10/23 読売新聞 夕刊

- » 渡辺佑基 教授（統合進化科学コース）
- » タイトル：海の111種 位置データ解析

イベント情報

日程	イベント名	URL	実施機関
2025/9/4-12/9	特別展「舟と人類—アジア・オセアニアの海の暮らし」	https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/59680	国立民族学博物館 小野林太郎教授
2025/4/1-2026/3/19	分子科学研究所 短期インターンシップ	https://www.ims.ac.jp/soken2025/	分子科学研究所
2025/9/18-12/16	企画展 「フォルモサ∞アートのー台湾の原住民藝術の現在(いま)」	https://www.minpaku.ac.jp/ailec_event/60413	国立民族学博物館 野林厚志教授
2025/11/8	統合進化科学コースオープンキャンパス	https://www.soken.ac.jp/event/2025/20251108.html	統合進化科学コース
2025/11/13	【オンライン開催】第144回分子科学フォーラム 講演者:岡本 裕巳(分子研教授)	https://www.ims.ac.jp/research/seminar/2025/06/26_6701.html	分子科学研究所
2026/1/21	総研大 アジア冬の学校2025	https://registration.ims.ac.jp/aws25/home	分子科学研究所
2026/1/29	【オンライン開催】第145回分子科学フォーラム 講演者:伊澤 誠一郎(東京科学大学 准教授(元分子研助教))	https://www.ims.ac.jp/public/seminar.html	分子科学研究所
2026/2/13	2025年度 核融合科学コースで学ぼう！ 研究最前線 説明会・講演会		核融合科学コース
2026/2/16-2/19	総研大・国立天文台スプリングスクール(春の体験入学)	https://guas-astronomy.jp/springs.html	国立天文台 天文科学コース

編集後記

富士山の山頂と太陽がぴったり重なる瞬間に、太陽がまるでダイヤモンドのように輝いて見える「ダイヤモンド富士」という現象をご存じでしょうか。葉山キャンパスがある湘南エリアでは、年に2回、春（4月）と秋（9月）に、このダイヤモンド富士を観測することができます。今回は9月1日の夕暮れに、葉山キャンパスからその美しい輝きをシャッターにおさめることができました。



9/1 葉山キャンパス近くのバス停より撮影



10/23 富士山初冠雪

さて、先日まで日々の暑さを憂いていたところ、ようやく訪れた秋を楽しむ間もなく、富士山で初冠雪が観測されました。これからは日に日に寒さが増してまいります。皆様どうぞお体にお気をつけて、きたる冬を元気にお過ごしください。

（広報社会連携係）

総研大基金によるご支援について

本学では、経済的に困難を抱える学生の支援等を推進するため、総研大基金を設立しています。ぜひ皆様のご支援をお願いいたします。

【詳細はこちら】

<https://www.soken.ac.jp/donation/>



広報社会連携係では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大学生が筆頭著者として研究論文を出版する際など、プレスリリースを行う場合は、総研大と基盤機関との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携係までご連絡ください。

また、学生や教員のメディア出演や受賞・表彰、地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動といった社会連携・貢献活動など、様々な活動について、ニュースレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、是非情報をお寄せください。

なお、研究論文を投稿する場合や、メディア等へ出演される場合は「総合研究大学院大学」と表記いただき、総研大の知名度向上へご協力ください。

2025 年 11 月発行

編集・発行

国立大学法人 総合研究大学院大学

総合企画課広報社会連携係

神奈川県三浦郡葉山町 湘南国際村

TEL: 046-858-1629

Email: kouhou1@ml.soken.ac.jp

© 2025 SOKENDAI